



対策困難外来種防除計画策定調査費

2019年度要求額
40百万円(39百万円)

背景・目的

外来種の中には、国内で蔓延又はその恐れのあるものの、様々な背景により外来生物法に基づく飼養等の規制が困難な種が存在する。例えば、広く一般家庭で飼育されており指定により放逐が増大する、交雑個体が多いが肉眼で見分けがつかず、規制をかけることにより法の適正な執行に混乱を生ずる、等である。また、H28～30年度にこのような特徴をもつアカミミガメをモデルに検討を行ったが、同種の駆除に伴いアメリカザリガニが増加する等、同じ場所で複数の外来種が生息する場合、ある種を駆除すると他の種が勢いを増す等、単純な対応では固有の生態系を維持できないことが指摘された（種間相互作用）。これらの種について生息状況や影響等の把握、種間相互作用を加味した防除手法の確立、交雑種の判定手法の確立が必要である。また、遺棄防止対策等を含めた総合的な対策の対応が必要である。



アメリカザリガニ
神戸市HP

アカミミガメ

事業概要

- 全国における対策困難外来種の飼養や流通状況、野外の生息実態や生態系影響等の状況把握を行い、工夫されたワナやかい掘り等古くからの知恵も利用し、効果的な防除のために必要な基礎情報を収集する。
- 外来生物の駆除による生態系の変化の状況の把握を行い、種間相互作用を踏まえた防除方法の確立に必要な技術的情報を収集する。
- これらをもとに、3地域程度代表的な生息地を設定し、防除手法及びその後の処理方法・体制等の検討のためモデル事業を実施する。
- 肉眼では判別の難しい交雑種について判別手法を確立し、法制度上の取扱い方について検討する。

イメージ

対策困難外来種の生息状況・生態系影響評価

生態系の種間相互作用を踏まえた防除手法の確立

交雑種の判別方法及び取扱い方法の検討



チュウゴク
オオサンショウウオ
神戸大学HP



自然環境等区分を踏まえたモデル事業の実施

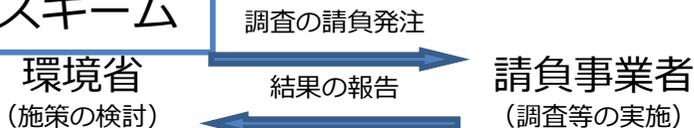
国民、ペット業者への普及啓発方法の検討

かいぼりの様子



日光浴ワナ

業務スキーム



国、地方自治体、市民団体等の役割分担に応じた全国展開

期待される効果

既に被害を受けている生態系を本来の生態系へと回復させ、我が国の生物多様性を保全する